

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2392400087		
法人名	医療法人宏友会		
事業所名	グループホーム太田		
所在地	愛知県半田市乙川太田町1-7-1		
自己評価作成日	2022年 12月 15 日	評価結果市町村受理日	令和5年3月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム太田では地域への関わり、行事への参加を積極的に行っています。春は花見・春祭り・運動会 夏には盆踊りと季節の行事が続きます。又グループホームの周りには大きな公園があり散歩コースとして最適となっています。のんびり歩きながらのおしゃべりを楽しんで頂けます 併設しています小規模多機能ホームとも交流も活発に行っており 毎日穏やかでゆったりした時間が流れています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&Jigy_osvoCd=2392400087-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは同じ建物内に小規模多機能事業所を併設して運営している。職員体制については、両事業所を兼務している職員が多く、小規模多機能からグループホームに生活場所を移行した利用者についても、今までと同じ職員で支援が継続されていることで、利用者にとっては、生活環境の変化をおさえる効果にもつながっている。感染症問題が続いていることもあり、利用者の外出の機会が限られた範囲となっているが、ホームの近隣に大きな公園がつけられていることで、利用者がホームから出て公園内を散歩する機会がつけられている。外出支援については、感染症の状況もみながら、家族との外出も行われており、利用者との交流の機会にもつながっている。また、建物の2階に高齢者住宅(高優賃)がつけられていることで、日常的に外部の方の訪問が多いのも当ホームの特徴でもある。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中区三本松町13番19号		
訪問調査日	令和5年1月22日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	毎朝の申し送り後に法人理念を職員全員で復唱し理念に沿った介護をすることを目標にしている 散歩などの外出時には地域の方への挨拶も積極的に行うよう心掛けている	運営法人の基本理念を支援の基本に考えながら、職員間で日常的に理念を唱和することで職員が振り返る機会がつけられている。また、職員で目標をつくり、理念の実践につなげる取り組みも行われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	隣組の一員として防災やお祭りなど地域の取り組み等に協賛、寄付も行っている。又行事にできる限り参加し(盆踊り・花の塔・小学生の来訪や運動会)交流を図ってきたが今年度もコロナ禍で行事は全て中止となっている	感染症問題が続いていることで、地域の方との交流が困難な状況が続いているが、ホームは地域の町内会に入り、回覧板等を通じて情報交換等が行われている。併設事業所を通じた地域の方との交流も行われている。	地域の方との交流が困難になっている状況が続いていることもあるため、今後の感染症の状況もみながら、地域の方との交流が再開されることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	認知に関連しての色々な病気等についての勉強会を運営推進会議で行っている。(今年度もコロナ禍の為書面報告)又地域の方の介護面で相談してもらえる場所になっている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	利用状況・活動状況を報告し、情報の交換を行っている。又、意見等、貴重な声を生かせるよう努めている。会議で話す内容はミーティングでも話合うようにしている(今年度もコロナ禍で書面報告のみとなっている)	会議については、感染症の状況もみながら開催しており、今年度は1回(令和4年7月)開催している。また、会議を併設事業所と合同で実施しており、市担当者をはじめ、会議の関係者に事業所全体の状況を知ってもらう働きかけが行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	(1)運営推進会議への参加依頼(2)在宅ケア推進地域連絡協議会への積極的参加(3)シームレスケア連携会への参加(今年度もコロナ禍で参加依頼、参加を見送っている)困り事がある場合は相談にのってもらっている	市担当部署とは、毎月の運営状況の報告をはじめ、定期的及び随時の情報交換等が行われている。また、管理者が併設している小規模多機能事業所の管理者を兼務していることで、事業所全体で地域包括支援センターとの情報交換等も行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束に関しては事あるごとに勉強会(虐待防止委員会より)を行い、身体拘束を正しく理解ししないケアに取り組んでいる 但し危険行為がある場合は家族に了解をえて拘束する場合もある 尚、太田玄関はオートロックです	身体拘束を行わない方針で支援が行われており、併設事業所と平面でつながっていることもあり、職員間で利用者の見守りが行われている。運営法人で身体拘束に関する委員会が行われている。また、職員研修を実施し、職員の振り返りの機会につなげている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待防止委員会を設置し毎月の朝ミーティングで虐待防止について勉強会を行っている 職員間でもお互い注意し合えるよう心掛けている 利用者様の身体チェックを少しでも異常があれば原因を調べている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	成年後見制度については学んでいる。が今は対象者がいない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	重要事項説明書・契約書での十分な説明・理解・納得を図っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議等での家族のアンケートや、直接口頭での相談・苦情・要望等をミーティング・朝の申し送りで職員全員で共有しその都度改善してきている	家族との交流が困難な状況が続いているが、ホームの玄関先で面会を実施する等、現状で可能な交流が行われている。家族からの要望等は管理者が把握し、内容にも合わせて運営法人に報告している。また、毎月のホーム便りの作成が行われている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月一回の代表者会議・ミーティングでの職員からの意見・提案を職員全員で協議し、改善に向け努力している（個人面談等での意見等） 又、年1回の自己評価及び外部評価を行っている	併設事業所と兼務している職員が多いことで、日常的に職員間で情報交換等の時間をつくっている。職員からの意見等を管理者が把握し、運営への反映につなげている。管理者による定期的な職員面談も行われており、職員一人ひとりの把握につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	年2回各自目標を立てどう実行するか、具体的に挙げている 定期的に代表者が現場を訪れ職員の様子・職場環境等を聞き取りし、改善に努めている 労働時間を柔軟に対応し働きやすい環境整備をしている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	年6回法人内の研修があり その他、法人外の勉強会の機会もありなるべく多くの人に参加出来るよう推進しているが 今年度もコロナ禍で開催中止している それぞれが学びの機会を持つようにしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	年6回の法人内外での研修の場や在宅ケア推進地域連絡協議会・シームレスケア連携会等に積極的に参加を促している（今年度もコロナ禍で積極的な参加は出来ていない）		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	安心して任せて頂けるような関係作りを心がけている 本人の要望は不明確な面もあり、本人の発信を引き出されていないのが現状である		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	家族が出来ること・出来ないこと、希望等をお聞きし施設で出来ること・出来ないこと等をお話し安心して生活を送って頂くための関係作りを努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人様にとって適切なサービスを心がけている 又、過剰なサービスにならないよう配慮している 本人様とご家族様が望む支援を理解し対応できるよう努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	出来ることは何なのかを常に考え、日々変わっていく体調に十分考慮しながら、出来ることはご自身で、出来ないところだけのお手伝いを心掛けている またタオルたたみ等をして頂きおおいに助かっている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	常に情報は提供させて頂いている コロナ禍により家族からの支援(面会や外出)を控えてもらっているが、関係性に大きな変化はなく必要なケアはコロナ禍であっても協力を得ている 共に支えていく関係である		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている。	ご家族・友人様の面会、外出等の支援に努めている(今年度もコロナ禍の為面会時間、回数も制限されている) 電話等での交流の習慣は継続して支援出来ている	外部の方との交流が困難になっているが、小規模多機能から生活場所を移行された方は、小規模多機能を通じて、入居前からの方との交流の機会がつけられている。また、家族との外出についても、感染症の状況もみながら、随時の支援が行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	お一人お一人の性格・状況を把握し、個性を大切にし、周りとの関わりを持って楽しく生活出来るよう支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービスが終了しても、家族との関係性を大切に、相談や支援に努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	思いや意向の発信が困難な方からの引き出しは出来てないことも多いが、本人様のお話をお聞きし希望にそうように努力している	職員全員で利用者の把握を行いながら、日常的な申し送り等を通じて、職員間での共有が行われている。また、随時のカンファレンスの取り組みも行われており、利用者や家族の意向等を日常の支援につなげる取り組みが行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご本人・ご家族・友人の方より情報を収集し、これまでの暮らしの把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	毎日を通し、微妙な変化も見逃さないよう努め、職員間で共有している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	毎日の暮らしの中での、起きてくる課題については、本人・家族様と話し合い、現状に即したプランを作成している やや画一的な面もある	併設事業所と同じ様式であるライフサポートプランで介護計画を作成しており、全職員が支援内容の共有ができるような取り組みが行われている。日常的にも1日1ページの記録用紙にチェックを行い、毎月のモニタリングと定期的な計画の見直しにつなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の気づき・実践を記録し、職員間での情報を共有し介護計画の見直し、実践ができるよう取り組んでいる「工夫」した点についての記載を増やしていきたい		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	突発的な要望も、柔軟な支援やサービスを組み合わせ対応している(職員・NS等からの情報をもとに、柔軟な対応に取り組んでいる)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域との繋がりを持ち、安全で豊かな暮らしを楽しむことが出来る支援が出来るよう努めている（今年度もコロナ禍で外出出来ない）		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	体調不良時には常に家族に連絡し状況をお伝えしている。法人の内科医の訪問診療、又はかかりつけ医と連携を取っており情報提供している	運営母体の医療機関による医療面での支援が行われているが、多くの利用者が今までのかかりつけ医を継続しており、家族の協力で受診対応が行われている。また、複数の看護師が勤務しており、医療面での支援が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	併設事業所の看護師との連携を密にし、適切な方法を相談しつつ支援している 体調不良時には受診をするなど早急な対応を心掛けている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関とは情報交換等連携には努めている また、病院主催の勉強会にも参加し関係作りを行っている(コロナ禍のため今年度は参加できていない)		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	主治医と情報を共有し主治医、NSが ご家族への説明を十分に行い ご家族の納得の元、チームで終末ケアに取り組んでいる	身体状態が重い方もホームでの生活を継続できるように支援が行われているが、看取り支援については行っておらず、現状は医療機関へ移行される方が多い。利用者の段階に合わせて家族との話し合いを重ね、意向等にも合わせた支援が行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変や事故発生時に備えての応急手当、初期対応は看護師等より指導があり、実践力を身に付けている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	災害対策委員会を設置し災害時の備蓄や避難経路を見直し提示している 消防署と共に消防訓練を年2回実施し、避難の手順等を職員が確認している	年2回の避難訓練を実施しており、夜間を想定した訓練や通報装置の確認等も行われている。訓練は、併設事業所と連携している他、建物2階の高齢者住宅の方の対応の確認も行われている。また、水や食料等の備蓄品の確保も行われている。	感染症問題が長期化していることで、近隣の方との交流が困難な状況が続いている。今後の状況をみながら、近隣の方との非常災害に関する協力関係につながることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	言葉のマネジメントを学びマニュアルを作成統一した言葉使いで介護が出来るよう心がけているが、声かけの仕方に思いやり、配慮にかけた対応になってしまっていることもあった	運営法人の基本理念でもある「職員心得三カ条」の唱和が日常的に行われており、職員間で利用者への対応や言葉遣い等の意識向上につなげている。また、職員の接遇に関する研修も実施しており、職員の振り返りにつなげている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	一方的な声掛けにならないように選択肢を広くもたせ、自己決定が出来る声かけをするよう心掛けている。思いや希望が伝えられるような信頼関係を築けるよう働きかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	ケアプランに沿って支援しているが、グループでの生活のため希望に添えないこともある。また、その日の状態でプランを変更することもある。お一人、お一人の希望に沿えるプラン作りを目指したい		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	ご自分で選べる方は少なく職員が同じような服装にならないよう配慮している。また、選んだ服はご本人に確認して頂き決定するようにしている。ご本人が満足のおしゃれは支援できていないと思われる		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事のメニューを毎日お知らせして食事を楽しくしてもらっている。一人ひとりの好き嫌いに対応し食事を提供している。食後は御盆ふき等手伝ってもらっている	食事については、外部業者も活用しながら提供しており、利用者の身体状態に合わせた食事形態の対応も行われている。季節等に合わせた食事の提供も行われており、利用者の楽しみにつなげている。	おやつ作りは、併設事業所で行っていることが多く、ホームでは少ないのが現状である。感染症問題もあり、交流が困難な状況でもあり、ホームでのおやつ作り等の取り組みにも期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	個々の身体状況に応じ、一口大カット・極刻み・主食は普通・軟飯・粥等それぞれ対応し支援している。食事摂取量を把握している。又栄養バランスに関しては法人内の管理栄養士が管理し、水分量に関しては看護師を中心に管理している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、口腔ケアを行い、清潔を保って頂くよう支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	定期的なトイレへの誘導・排泄パターンをお1人お一人把握し、トイレでの排泄や排尿の自立に向け支援をしている	利用者の身体状態等にも合わせて排泄記録を残し、申し送り等を通じて職員間で情報を共有し、一人ひとりに合わせた支援につなげている。トイレでの排泄を基本に、職員2名での支援も行われている。看護師との排泄に関する医療面での連携も行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	職員全体で排便の有無を確認しあっている。飲食物の工夫や水分摂取の声かけを行うなど看護師を中心に一人一人の体質に合わせて自然排便できるよう支援している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	入浴日は決まっているため、楽しんで頂くことは難しい。但しお一人お一人の体調に合わせての入浴もしている	ホームでは、利用者が週3回の入浴が行われるように支援が行われており、併設事業所の利用者と合わせて職員間での連携した対応が行われている。入浴時には、職員を2名配置していることで、身体状態の重い方の入浴にも柔軟に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	体調に合わせての休息を促している。特に夜間は、室温・照明等の睡眠環境を整え安眠出来るよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	個々の薬情について職員全体で把握するよう努めている。病状の変化等については、随時看護師に報告、相談している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	家族の協力を得ながら、ご本人の希望に沿ったものが提供出来るよう支援している。ご本人のお好きなこと趣味などをお好きな時間に行ってもらおうようにしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	可能な限りは家族の協力のもと希望を叶えるよう支援していきたい。今年度もコロナ禍であり外出の機会は設けていない	利用者の外出が困難な状況が続いているが、ホームの近隣に広い公園があることで、利用者が公園を散歩する機会がつけられている。利用者の意向等にも合わせた個別の外出等は、家族の協力も得ながら行われている。	利用者の外出について、ホームでも可能な範囲で行われているが、今後の感染症の状況もみながら、利用者の外出の機会が増えることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	認知症の進行もあり、管理は施設で行っている 外出の際等の支払いは可能な限り支払いをお願いしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	随時対応している 妹様との電話を楽しみにされている方もいらっしゃる		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	気持ちよく過ごして頂くために常に清潔を心掛けている 又、季節・行事等、雰囲気作りに努めている	ホーム内は広めの空間が確保されており、ソファの配置も行いながら、利用者が日中の時間をゆったりと過ごすことができる生活環境が整えられている。以前は、平面でつながっている併設事業所との交流が行われており、利用者の楽しみにもつながっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	利用者様同士の席も常に気を配り楽しく過ごして頂けるよう支援している 居室とホールの行き来は自由に行えている ご本人の希望する場所で過ごせるよう配慮している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	「安心で安全で居心地良く」を心がけている ご家族の協力を得て使い慣れた物を準備してもらい、ご本人の希望をお聞きしながら家具・ベッド等を配置している ご本人の体力に合わせての居心地よさも心掛けている	居室に整理タンスの配置が行われていることで、家具類の持ち込みの少ない方にも対応している。利用者の中には、好みの物を持ち込んだり、家族の写真等を飾っている方もいる。また、ベッドが備え付けとなっており、全員の方がベッドで生活している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	シルバーカーや車椅子などの福祉用具を一人ひとりに合わせて提供し、自立した生活が送れるよう支援している 環境の整備を行っている		